研究デザインから考える福島県の「甲状腺検査」

——4歳児未公表データが意味するもの

白石 草

しらいし はじめ
OurPlanet-TV

福島県の甲状腺検査をめぐり，検査を実施している福島県立医科大学は3月30日，これまでに公表しているデータ以外にも，甲状腺がんと診断されていた子どもが存在することを認めた。福島県民健康調査の2次検査でいったん「経過観察」となった患者は，その後，甲状腺がんと診断されても，「県民健康調査の結果には反映されない」という。甲状腺がんの早期発見・早期治療に並び，甲状腺がんの症例数を把握することが目的だったはずの「甲状腺検査」。国と東京電力が約1000億円を拠出して実施されているこの検査は一体何のためなのか。研究デザインの観点から課題を探る。

未公表の4歳児データ

「公開されていないデータがある」ことが発覚したのは今年3月である。小児甲状腺がん患者に対して経済支援を行っている民間団体「3・11甲状腺がん子ども基金」に，事故当時4歳の男児から，療養費の給付申請が届いたことがきっかけだった。これまでの「県民健康調査」検討委員会では，事故当時4歳の子どもの症例は発表されていなかったことから，不審に感じた事務局が事実確認をしたところ，申請用紙に記載されている医療情報に誤りはなく，すでに手術を受けていることがわかった。事務局によると，男児は，県民健康調査の2巡目を受診してB判定となり，その後，経過観察を経て，2015年夏に穿刺細胞診を施行。甲状腺がんの疑いがあると診断され，昨年春に甲状腺の全摘手術を受けたという。

基金からの指摘を受け，検査を実施している福島県立医科大学(福島医大)は3月30日，ホームページ上に「甲状腺検査の「悪性ないし悪性疑い」数の計上についての解説」と題するQ&Aを公開。「二次検査で経過観察となり，保険診療を受けていた方が，経過観察中に甲状腺がんと診断されて手術を受けた場合，さかのぼって県民健康調査の「悪性ないし悪性疑い」の数に反映されたり，手術症例数に加えられたりするのですか。」との質問に対し，「ご質問のケースの場合，県民健康調査の「悪性ないし悪性疑い」数や手術症例数には反映されないことになっております。」との回答を掲載した。福島医大の田中成省広報室長は，「保険診療へ移行後に見つかった甲状腺がん患者は，あくまでも一般の保険診療なので，センターでは把握していない」と述べ，「県や検討委員会が決めたルールに従っているだけ」と説明する。また，甲状腺がんの症例数については，「地域がん登録」で情報収集をしているという。

とはいえ，同検査の目的は「子どもたちの健康を長期に見守るために，現時点での甲状腺の状態を把握する」ことである。県民健康調査は，経済産業省資源エネルギー庁と東京電力が計1000億

Review the Fukushima Thyroid Examination from the perspective of research design: What the unpublished data of 4 year-old children means
Hajime SHIRAISHI